

## 第9回市民と議会の意見交換会開催報告

### 1. 日時

令和4年7月31日（日） 午後2時00分 ～ 午後3時30分

### 2. 場所

バンビオ1番館 2階 市民ギャラリー

### 3. 説明員

議長	三木常照	
副議長	小原明大（司会）	
議会運営委員会委員長	進藤裕之	
議会運営委員会委員	広垣栄治	福島和人
	上村真造	中小路貴司（代理）

### 4. 来場者

市民（19人）

報道（1人）京都新聞社

### 5. 出席議員（13人）

川口良江	西條利洋	宮小路康文
山本法政	二階堂恵子	中村歩
住田初恵	大伴壘	富田達也
石井啓子	白石多津子	田村直義
八木浩		

### 6. その他の出席者

議会事務局（6人）

### 7. 内容

(1) 開会の挨拶〔三木常照議長〕

(2) 議会改革についての報告〔進藤裕之議会運営委員会委員長〕

(3) 議会改革、議会についての参加者からの質問、意見（抜粋）

○市民

**【議員定数削減についての議会運営委員会での結論は】**

議員定数を24名から22名に削減したことについて、資料には、議会運営委員会では結論が出ずという記載があるが、請願の審査を議会運営委員会でされて、結果2名減っているということは一定の結論が出されたと思っている。そこについての言及がなかったが、説明を省略されたということか。

- 進藤裕之議会運営委員会委員長 議会運営委員会では、委員会に付託を受けた請願に対して審査し不採択としたが、それをもって議会運営委員会として、議員定数の結論を出したわけではない。請願は本会議で審議するもので、あくまでもその中で、賛成多数で可決したという状況である。なお、本会議に議員定数を2名減ずる条例案が議員から提出され、それを本会議の場で賛成多数という形で可決した時点をもって、議会として結論を出したと理解している。

○市民

**【議員定数削減の提案内容について】**

議員定数削減がどのような内容で出されたのかというのを教えていただきたい。議員定数については、人口比に対する割合から考えるということがあったと思うが、市の人口が増えていっているにも関わらず、経費削減等の考え方だけで議員定数を削減すると、市民の思いをちゃんとくみ上げられるのか。議員の負担も増えることが懸念される。

- 進藤裕之議会運営委員会委員長 請願の内容は、当時24名から22名に減じてほしいというものだった。それを当時の議会運営委員会で論議していく中で、賛成少数という形で不採択となった。最終的に本会議で議員から議員定数を2名減ずるといふ条例案が提出され、本会議の場で賛成多数ということで可決されたというのが議員定数削減の条例制定に至った経過である。各会派の議員定数に関する考え方について順番にお答えする。
- 広垣栄治議員 日本共産党は、議員が減るといふことは市民の声を聴く機会が減ると考えたため、定数削減に反対した。
- 福島和人議員 公明党は、長岡京市の財政が厳しくなって人口も減っていく中で、定数についてはしっかり議論していくべきだと考え、定数削減の条例には反対した。請願は市民の声であるため、それを受け止めた上で、今後しっかり議論をさせていただきたいという意味で今回は反対した。
- 進藤裕之議員 人口に応じての議員定数は長岡京市でいうと36名だったと思われる。個人的な見解だが、これは多すぎるのではと思う。大体人口8万人前後の自治体の議会を見ていると、平均が22名である。また、常任委員

会の委員の人数は7名ほどが最適と言っている有識者がいたため、7名掛ける常任委員会が3つと議長1名でちょうど22名となる。以上から22名が最適ということで、輝は請願と条例案に対して賛成した。

- 上村真造議員** 平成西山クラブは、人口割で言うと他市の議員定数の平均は大体22名であり、24名が多いとか22名が少ないというよりは、議員一人一人が今まで以上に市民の声を聴くという姿勢を持てば、市民の声が聴けないということはないと判断して、削減に賛成した。
- 中小路貴司議員** 会派内でも現状維持、もう少し増やすなど、様々な意見があった。当時の平成市民クラブとしては、その時点の市議会や財政の状況、様々に勘案した中で、22名が最適だろうと判断し賛成した。
- 西條利洋議員** 議員の数が減れば市民の代表者が減るという面もあるが、コロナ禍で市民の生活に負担をお願いしている状況の中で、やはり市民の代表である議員がまず徹底した行財政改革を進める必要があると考えたため賛成した。

## ○市民

### 【議員定数削減による災害時対応の影響について】

議員は災害時にあちこち周って説明に行かなければならない立場でもある。過去に台風の被害があったとき、24名だったがパンクしていた。平時であれば22名で対応できるかもしれないが、災害時は明らかに少ないと考えるがどうか。元々26名いてできていたことが22名に減ったことで難しくなっているのではないか。

- 進藤裕之議会運営委員会委員長** 災害時の対応について、議員政策研究会でマニュアルを作成した。災害時の議員の役割は、基本的に市民の声を集約する立場になると考えている。ただ、議員それぞれが行政側に要望という形で上げると、行政側がパンクしてしまうため、全て情報は議会事務局を通じて議長に上げるという形に変更した。災害時いろいろな不具合が発生している可能性があるが、一元的に議会という場に集約して、災害対策本部に上げるという取り組みをしたため、22名で足りないという認識は持っていない。賛成反対それぞれ各会派の立場や見解がある中で、結論として議員提出議案による議員定数削減という条例が、26名の時代から過去2回提案されて可決されたというのが、議会としての最終意思決定という御理解をいただきたい。

○市民

【歩行者の安全確保について】

アゼリア通りからセブン通りへと入る付近は、自転車で歩道を走る人が多く、歩行者が安心して歩けない。また、阪急東口辺りも自動車が行ったり来たりしている。看板を立てる等、指示を分かりやすくしてほしい。

- 進藤裕之議会運営委員会委員長 長岡京市安全で快適な自転車の利用の促進に関する条例は、市民の安全をより高めるためという観点の中で、マナー向上をしっかりと果たしていかなければならないということも条例に盛り込み制定した。アゼリア通りの歩道については自転車歩道通行禁止だが、歩道の上を自転車が走行している例はよく見かける。頻度は少ないが、警察も実際に立って指導している。今回の質問については御意見として承り、マナー向上について、議会から行政側に続けて申入れをしていきたい。

○市民

【性の多様性社会の実現に向けた提言について】

資料に性の多様性社会の実現に向けた提言を作成という記載があり、国会で進んでいないのに、長岡京市で進んでいるのは若者にとっていいことかなと思った。その上で、性の多様性の理解や同性婚は法制化に関する議論の促進を求めるとは書いてあるが、個性や多様性を大事にする、差別をなくしていくという観点、国が婚姻に関して介入するのはおかしいという立場等、その理由はいろいろあるのかと思うため、長岡京市議会としてどのような哲学やポジションで求めているのかお聞きしたい。

- 富田達也議員 そのときの意見書に関しては、基本的に議論を深めてほしいという内容に留まっている。どこかにスタンスを持っているとかではなく、議論を国会ですてほしいという意味で上げている。私たちが上げた提言に関しては、性の多様性の理解をもう少し進められるような施策として、パートナーシップ制度やリーディングカンパニー制度の導入等を長岡京市として取り組んでほしいということで提案をした。これはLGBTの方などの性的少数者に関して、今のマイナス部分を少しでもプラスマイナスゼロぐらいまで持っていけるような施策が必要ではないかということで、全会一致で提出をした。

(4) グループトーク

(5) 閉会の挨拶 〔小原明大副議長〕